



こーひーぶれいく

私的千葉・房総案内

荒野 泰

Arano Yasushi

筆者は三重県伊勢市で生まれ育ち、京都で26年間過ごし、そして千葉大学へ赴任して今年で20年目を迎える。赴任前には学会で千葉市と鴨川市を訪れただけである。以下に筆者の独断と偏見に満ちたお気に入りの千葉・房総を紹介する。

【九十九里浜】千葉大学へ赴任して最初の研究室旅行で宿泊したのがサンライズ九十九里。(国研)放射線医学総合研究所(放医研)の入江俊章先生や学生と夜遅くまで痛飲した。客室すべてがオーシャンビューで海から昇る朝日が見えた(ような気がする)。九十九里浜沿いには自動車道があり、海の間近を走るのは快適である。蛤や浅蜷そして鯛の浜焼きも美味しい。

【香取市佐原】某生命保険会社のCMにも登場する小江戸。利根川支流の小野川沿いの柳並木道には古い町屋が建ち並ぶ。伊能忠敬の出生地でもある。共同研究者から「佐原は鰻が美味しい」と聞き、当時同居中の母と嫁とのガス抜きに2人の好物の鰻と考えたのがきっかけである。情緒あふれる佐原の街並みを堪能しているとき、大阪出身であるがすっかり土着化した京都時代の学生(現、千葉科学大学教授)から佐原大祭準備に行くところと自転車から声を掛けられたのには驚いた。佐原近くには水生植物園もあり、睡蓮や菖蒲の時期に何度か足を運んだ。鰻は秋から冬が美味しいと聞く。秋の佐原にも行ってみたい。

【御宿】御宿海岸は「月の沙漠」のモデルであり、海岸には「月の沙漠記念館」がある。「月の沙漠」と聞くと、小学校時代の夕方にこの曲が流れていたことや何故か「月光仮面の歌」を連想してしまう。御宿を訪れたのは、テレビの旅番組で「鮑のつつき貝」を見て、急ぎカタカナ4文字の民宿を調べたのが最初で、これまで3回くらい宿泊した。良心的な価格と新鮮な料理で大変人気があるため予約

困難なのが残念である。

【清水溪流広場(濃溝の滝・亀岩の洞窟)】小湊に宿泊し、千葉への帰り道に立ち寄った。天候と日の差し込む時間帯にもよるが、洞窟と川面に映る景観がハート型の幻想的な世界を創り上げる。夏には蛸も観られる。この洞窟、SNSを中心に「濃溝(のうみぞ)の滝」と紹介され有名となった。しかし、地元では「亀岩の洞窟」と呼ばれ、「濃溝の滝」は別に存在する。SNSでの知名度と地元からの名称変更にも苦慮した君津市は両者を組み合わせた「清水溪流広場(濃溝の滝・亀岩の洞窟)」を提案した。広場入り口にはこの説明文が表示されているのが面白い。入り口にある食堂のオムライスが美味しそう。

清水溪流広場から千葉へ帰る途中の木更津には美味しいカレー店がある。辛さは十両から横綱まで6種類。辛さには強いと自負していたが大関の壁は厚く、関脇が心地良い。大関を食べたときには、京都のボルトで一番辛いカレーを後輩学生と涙ながらに競って食べながら、何をしているのかとむなししく感じたことを思い出した。

【今後の課題】京都時代にPET夏の学校へ参加のため、ほぼ1日かけて京都から秋田まで電車移動した。そのとき車中から見た日本海に沈む夕日が心に残っている。今年の夏、念願だった新潟から山形にかけての海岸線をドライブしたがあいにくの曇り空だった。捲土重来で西伊豆へも足を伸ばしたが、やはり曇りであった。館山沖ノ島公園などの房総半島西側も夕日の絶景スポットのようだ。これまで近くを通りながら渋滞に怯えて機会を逃してきたが、次回こそは腹を据えて訪れてみたい。三浦半島からのフェリーが到着する房総半島金谷の近くには、森沢明夫の「虹の岬の喫茶店」のモデルになった喫茶店がある。そこにも足を運びたい。小説では、ここからの夕日も美しいとあったように記憶している。

私がユーザーとして無理難題を持ちかけていた知人が、私とほぼ時を同じくして京都から千葉へ転勤となり、10月に定年を迎えた。定年後は千葉市あすみが丘(昭和の森の入り口)で喫茶店を始める。建物は既に完成し、音にこだわり高性能スピーカーとアンプを設置してジャズを聴かせるといふ。昭和の森の散策も新たな候補に加えたい。

(千葉大学 大学院薬学研究院)